

### 第六区 注連飾り講習会

分館長 藤森 隆志

十二月十四日、町屋敷在住の宮本様を講師に迎え注連飾り講習会を開催した。講習会で使うわらは地区で取れた稲わらを使い、わらをすく作業から参加者各自で実施した。

開催日は手が悴む寒さの中、わらをすく作業を外で行い、公会所内部で縄をなう作業に取り組んだ。かつてはどの家庭でも行われていた作業だが、「なう」という言葉を知らない参加者は、作業の方も途中で縄がほどけたり、編み目が均等にならなかつたりと、悪戦苦闘していた。講師や熟練者の方々に手助けをしていただき、参加者は、全員が見本通りの注連飾りを作り上げることができました。

熟練者には見本の注連飾りの他に、輪締めなどの注連飾りを作って持ち帰る人もいました。

来年以降も地区の行事として開催して知識と経験を重ねていきたいと考えます。



### 第七区 東山田の史跡めぐり

分館長 本山 巖

六月十五日、心配していた天気は快晴で、なおかつ暑い。そんな中、参加人員は六十名ほどで区外の参加者もあり、東山田史話会の会長である宮坂源吉氏を講師に、いざスタート。東山田は、諏訪大社春宮のお膝元、史跡の宝庫であり、旧石器時代の駒形遺跡もあり、また鎌倉街道、古中仙道の沿道に位置している。皆、先人も歩いたであろう古道にいしえのロマンを感じながら、説明に熱心に耳を傾けている。

現在、史跡に居住されている方々から場所の提供、そして、説明までしていただき感謝、感謝。参加者は、汗を拭き拭き、それでも楽しそうに、三時間あまりの行程を無事踏破する。

東山田には、まだ数多くの史跡があり、次は、熊野神社、その上の山城跡の方を散策したいものだと、今年の分館への申し送りにおこうと思う。



### 第八区 注連飾り講習会

分館長 角田 正典

十二月二十一日に、毎年恒例となっている注連飾り講習会を行った。多くの公民館でも行われているように、一つの文化の継承とも言える行事である。同じ区民の守屋氏に講師をお願いし行われた。そんな中、寒い朝から二十名ほどの区民の人たちが参加していただいた。

毎年参加している方、初めての参加の方と一緒に協力しながらの作業となった。毎年参加されている方たちは初めての人たちに教えながらも、黙々と作業を進めるのに対し、初めての人はおぼつかない手つきでの作業となった。しまいには自分の作業を中断して、初めての人の注連飾りを協力しながら作った。和気あいあいとした中、何とか全員無事完成することができた。

伝統と技術の継承に繋がる行事だけに、今後も大勢の方々に参加していただけるようPR等していきたい。



### 第九区 年末の恒例行事

分館長 濱 豊

去る十二月二十一日(日)に、しめ飾り講習会及びお餅つきを開催いたしました。恒例行事でもあるしめ飾り講習会には大勢の区民の皆様に参加していただき、馴れた手つきで、わらをすいていき、初めての方には丁寧に説明していただき、とても和やかで和気あいあいの中、行うことができました。



年々しめ飾りの飾り付けに趣向をこらす方が増え、各家庭の玄関を飾る立派なしめ飾りが出来上がり、新年を迎えるにあたり気が引き締まる思いでした。

その間、分館役員は子どもたちと餅つきをします。前日から婦人部の方々に準備していただき、役員の協力のもと、全員でつくることができました。

今年は、出来上がったお餅を子どもたちが、あんな・きな粉・ごまの三種類の中から、自分たちが食べられる分だけ、お餅をつけて食べるようにいたしました。意外にも子どもたちには、きな粉とごまが人気がありました。

例年行っている行事ですが、しめ飾りやお餅つきなど機会がないとできない昨今、伝統行事を継続して行うことによって、日本の良きお正月の風習が受け継がれていければと思います。

### 第十区 文化祭

分館長 吉澤 廣志

十一月一日(土)から二日(日)の二日間、分館の大事業である恒例の文化祭を「富部からの発信―話・輪・和―」をテーマに、一層の融和と一体感づくりを目指し開催しました。

日頃の区民の皆さんの作品・地域の団体・サークルでの活動成果などを展示し、会場には四百名あまりの多くの皆さんに会場していただきました。

心配しました展示作品等は、太田文化部長を講師として家庭教育講座「切り絵を切って文化祭に参加しよう」を開催し、参加者の力作を会場に展示させていただきました。また多くの皆さんにご協力をいただき開催できました。

会場には、区民の皆さんの歓談の場を設けて、本年度分館のテーマ「出会いから生まれる地域の絆」を掲げて活動してきました。文化祭を通して、地域の絆づくりに一役担えたと思います。



#### 春を告げる花

フクジュソウ(福寿草)  
花言葉…永遠の幸福  
幸福を招く  
思い出 祝福

